



題字 井口 文章
再刊 第255号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面 53回生 卒業おめでとうございます
進学懇談会で先輩に学べ
二面 特選ごだいら食い倒れ7品!
1年遠井さんヴァイオリンで全国5位

助け合った仲間との絆忘れないで

第53回卒業式挙行

3月3日(土)に第53回卒業式が挙行された。今年の卒業生は525名。在校生や教員、保護者のあたたかい拍手を受けながら、卒業生は将来への希望を胸に錦城高校を旅立った。

希望を語る人になろう

暖かい春の日差しのもと、53回生の卒業式が催された。卒業証書授与では担任が

一人ひとりの名前が呼ばれ、体育館に大きな返事が響いた。校長先生は「先輩の記録を塗り替えようと頑張ることは、希望に目を向け努力することが大切です」と伝えた。学年主任の阿部一郎先生は「一度会ったら皆兄弟という意味の「いちゃりばちよー」と「助け合い」という意味の「ゆいまー」という沖縄の方言を紹介。「皆さんはこの言葉通り必要があれば団結し、支え合い、成長しました。最後に人と人とを結ぶのは人間同士の心です。だからこれからもこの言葉を忘れないでください」と語った。



卒業式後、教室の黒板の前で卒業証書を持って笑顔でピース

ました」と涙ぐみながら言う。卒業式後の3年生の教室は、賑やかな話し声と笑顔で溢れていた。写真を撮ったり、寄せ書きをしたり、胸上げをする姿も見られた。

最後のHR終了後、教室で思い出話を花を咲かせていた3年G組の柿岡ちひろさん、佐藤かんなんさん、齋藤真知子さん。錦城での3年間は「充実していた」とも楽しかったです。一番の思い出は秋の球技大会で放課後に体育館で練習したことです。3人とも「またバレーがしたいです」と楽しそうに話した。



様々な思いを胸に体育館を後にする卒業生

感謝の気持ちを込めた送辞
三送会準備などをした中央委員会の代表として、生徒会長の村本夏望さん(2E)に話

旅立ちを前に最後の贈り物

笑いあり涙ありの三送会

2月27日(火)、第一体育館にて三送会が行われた。

幕を切ったのは先生方で構成されたバンド「キューティー婆ニー」。曲中の「ハニーフラッシュ」と叫ぶ部分では会場からも叫ぶ声が聞こえてきた。

その後も漫才、軽音楽部の



全演目後、観客に手を振る3年生の先生達

ノリの良い演奏など、様々な露し、会場を絶えず笑いで包み込んでいた。

三送会実行委員長の菅原彩乃さん(2E)は今回の三送会を「前日までいくつ失敗があつたものの、本番は大きな問題も無くてよかったです」と笑顔。「先輩にいい形で引き継ぎ、来年もいいものになれるといいなと思います」と話した。

三送会準備などをした中央委員会の代表として、生徒会長の村本夏望さん(2E)に話

卒業生に聞く合格への道のり

3月13日(火)に進学懇談会が行われ、卒業した53回生が、大学受験について話をしてくれた。1・2年生は受験を終えたばかりの先輩方の話を真剣に聞いていた。

得意教科でも放置は禁物

杏林大学医学部医学科に合格した小澤大機先輩。「まず、今日家に帰ったら市民会館や



「詰め込みは禁物です」と語る小澤先輩

図書館を探してください。家に帰って即勉強は無理です」と第一声を発した。小澤先輩の後悔は、2次試験の面接で具体的な答えを用意しておか

お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科に合格した富



「入試形式や奨学金制度も早く調べて」と富先輩

むらさき草

昨年から話題の吉野源三郎作「君たちはどう生きるか」ジャナリストの池上彰氏も大絶賛というポツプツを見た時、不意にある苦い記憶を思い出しながら本屋に並ぶこの本を手にとった。去年の秋、とある高校生対象の討論会に参加した。国連大学という壮麗な会場もさることながら、幼い頃からの憧れである池上彰氏を特別講師を務めるとあって心は浮き立っていた

生徒が学校を楽しいと感じてくれたら

今年度で「さだ先生」と国語科の田中貞夫先生が定年退職をする。古文の教師となつてから43年間、ここ錦城で勤めた先生に今の思いを聞いた。

「だって自分の専門をそのまま教えたらいいいんだから、これほどいい職業はないなって思って」と当時のことを振り返る先生。新任時代に先輩の先生達が途方もない量の古文の文献を読み込んできていることを知った時は、30年後の時点で自分も追いつければいいと気長に構えたそうだ。1年で100冊本を読もうと決め、この40年近くで読んだ本は5000冊を超えた。

普段は飄々としている先生だが、いつも生徒のことを第一に考えている。「生徒が学校を楽しいと、そして居場所だと感じてくれたらそれでいいや」と言う。

43年間休むことなく教えることができた理由を尋ねると「何だかんだ錦城は嫌いじゃなかったし、生徒も好きだったから」と先生。

生徒に送る言葉としては「人にはそれぞれの型がある。大変だけれど、自分なりのものを見つけることがまず大事」と話してくれた。

「たまたまが一生になったけど...でも楽しかったよ、43年間」



教えるは映画監督から団子屋まで様々

周りの人は次々と当られていくのに、結局自分一人、何も言えぬまま。人生で一番楽しかった日は、虚しさが入り混じった後悔で満ちた。君たちはどう生きるかの中で主人公ペルくんが友人と仲違いをして深く悩んだとき、母親はこんな話をしている。女学生の頃、石段で重い荷物を運ぶおばあさんを見た彼女は「次に止まったら声をかけよう」と思うが何も言えず、結局迷惑に「驚かされる。どうして思ったことを行動に移せなかったんだらうって。あの時はずがずしてしまつた自分は、心の中ではつきりと残っている」と筆者はここまで読んでくると「だからこそそぞろ友達に謝りにいくように」と諭す場面が続くとばかり思った。だが、実際は違つた。忘れられないのが嫌?と息子に尋ねられた彼女はこう答えた。「ううん。将来自分の中に、少しでもきれいな心が湧いてきたら、今度こそそれを生かさなきゃって、きつと何度でも背中を押してくれるから」。そしてペルくんは翌日、学校で友人たちと見事に和解し、元通りの日常を再び歩み始めた。どんな忌々しい思い出だろうと、そのような経験があるかないかでは、案外人生は大きく変わっていくのかもしれない。高校生活だけでなくこの先、どんなに上手いかないかがあっても、愛すべき失敗たちを自分の糧にして、新たな季節へと大きく羽ばたいていきたい。私たちは、どう生きるか。

食い倒れ selection

平成27年度から今年で3年目を迎えるこいだら食い倒れ特集。190号から始まり、コダイブランドに登録された全54商品のうち19商品を紹介してきた。今回は今まで訪れてきた店舗の中から、編集部員が独断と偏見で7つの店舗を厳選!!春休みに一度は訪れてほしい店を紹介する。

小平の「LOVE」味わってみては?

①季節の小平産野菜を使用した蕎麦

「手打ち蕎麦と酒 佳蕎庵」

住所：小川町2-1362 (青梅街道駅より3分)

「手打ちそばと酒 佳蕎庵」は、日本各地のそばの実を厳選し、お店で製粉からする、そばにこだわり抜いたお店。温かいそばを最後まで箸で手繰れるように太くしたり、つなぎを使わないそばがあったりと、店主さんのこだわりが感じられます。



温かい汁の中には沢山の小平産の野菜が。幼児も安心!

実際に食べてみると...

メニューの中で一番多く小平産野菜を使っている「放牧豚野菜汁つけ」を頂きました!野菜は季節の食材を使っています。さっそくそばを口に入ると...ん~!のどごし良い麺はつゆと絡んで、そばを手繰る箸が止まりません!最後には、野菜の旨味が出た汁をそば湯で味わい尽くして、大満足でした。(緋・紅・鶴)

④こだわりの「ブルーベリーチーズケーキ」

「ケーキのMari」

住所：小川町1-2141 (小川駅より11分)



編集部では2ホール購入し、全員で食べました

「ケーキのMari」は、予約を受けてから店主さんが作る手作りチーズケーキを販売しています。店主である土方真理子さんは、30年前から趣味でケーキを作っていたところ、友人に勧められて販売を始めたそう。旦那さんのアドバイスからブルーベリーを取り入れたところ、小平ブランド認定に至りました。

実際に食べてみると...

きめ細かいチーズのクリーミーな口触りとブルーベリーのすっきりとした甘味がマッチします。ボトムにはバターでの代わりのオリーブオイルとクッキー、ブルーベリーが使われていて、しっとりとした生地とブルーベリーのつぶつぶとした触感が絶妙なハーモニーを生み出します。(藤・鶴・緋・碧)

⑥ボリューム満点! 「小平あんぱん」

「パン工房 EMU エミュウ」

住所：学園東町3-12-6 (錦城より自転車で25分)

「パン工房 EMU エミュウ」は、手作りパンを焼きたてで提供するパン屋です。提供している商品は、店主の中川雅裕さん他10人ほどが朝3時から作り始めているという優しい甘さにあっさりとした後味。何個でも食べることができそうです。中には厳選された手練あんこ、生クリームが入っています。一つひとつ中身を量り、全ての商品が同じ重さになるようにしています。1日200個の限定販売で早い日には昼前に売り切れるといわれています。購入はお早めに!

実際に食べてみると...

手に持つとずっしりとした商品の重みが伝わり、中身が詰まっていることがよくわかります。口にするとなめらかなあんこにきめ細かい生クリームが絶妙な絡み合いを作り出しました。(碧・灰・紅)



「今まで食べたハンバーグの中で一番美味しい!」という編集部員も

中にはブルーベリーを入れているのですが、今ではブルーベリーワインも使っているそうです。店主の安斎さんは、「食べてもらった人に『おいしい!』と言ってもらえるのが嬉しいです。冥利に尽きますね」と笑顔で話してくれました。

実際に食べてみると...

ブルーベリーワインを使用したデミグラスソースは深みのあるコクが印象的。ソースの中には確かにブルーベリーのスチスチとした食感を感じます。奥深いコクとブルーベリーの風味が絶妙にマッチしたソースです。(緋・天・蓮)

(参考:小平商工会公式HP)

コダイブランドとは「LOVE(Local Original Value Excellent)」をコンセプトに、小平商工会が小平にふさわしい商品・製品・サービスを選定し、その魅力を伝えることを目的としたプロジェクト。現在の登録数は、54アイテム。小平市が特にアピールしているのが「丸いポストのまち」栽培発祥の地「の3つだ。」「丸いポストのまち」では小平市内に丸ポストが日本でも一番多く設置されているため、市内の昔懐かしい丸ポストをサブプライブやお茶缶のモチーフにする事で世間に広めている。「身近な緑」は小平市に存在する玉川上水や狭山・境緑道、小平霊園などの自然のこと。小平の店舗には、自然の中にも多い。「日本ブルーベリー栽培発祥の地」では、日本で初めてブルーベリーが農業産物として栽培されたことを生かし、ブルーベリーを小平の特産品の1つとしている。小平商工会はコダイブランドを通して、このような価値ある小平市の特徴を各店舗と協力して広めている。

②柚子の香りが広がる「小平産 ゆめケーキ」

「カフェ ラグラス」

住所：美園町1-24-14 (小平駅より7分)

「カフェ ラグラス」は、ゆったりとした寛げる雰囲気のカフェ。みずみずしい柚子が近隣の農家にあると聞き、ケーキに使用したそうです。他の商品も、地元の人に愛着をもってもらえるように材料は全て小平生活協同組合のものを使うなど、子供からお年寄りまで素材の大切さを感じてもらえるようにこだわっています。



しっとりとしたケーキとクリームが最高の一品

実際に食べてみると...

生クリームとミントが添えられていて、見た目もおしゃれなケーキ!柚子の香りが口いっぱいに広がります。付け合わせの生クリームもやさしい甘さ。一緒に食べると、生地のしっとり感とクリームがマッチし、絶妙な美味しさです。たっぷり使われた柚子の食感もあり、最後まで柚子のおいしさを楽しめます。(英・巴・日)

③小平産紅茶の大人の紅茶豆かん

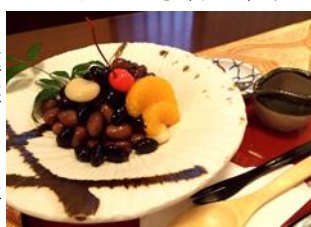
「甘味 café こすず」

住所：美園町3丁目31-28 (小平駅より7分)

「甘味 café こすず」は、2016年8月にオープンしたカフェ。店主である鈴木武仁さんは、元錦城生。父親の寿司屋を継いだ後、時代の流れに乗り洋食店を開いたと話していました。認定品については、小平市役所から小平ブランドのお誘いを頂き、小平産の紅茶と豆そのものの味を残した一品を出品。みごと審査を通過し、小平ブランドに認定されました。

実際に食べてみると...

ふんだんに使われた小豆、黒豆、金時豆、白豆は、ふっくらと煮られ上品な甘さです。寒天とシロップには小平産の紅茶が使われており、口に運ぶとふわっと紅茶の香りがします。4種類の豆の様々な味や食感と、寒天のツルンとした食感を楽しめます。濃厚な黒蜜をかけると、また違った味わいで、豆好きにはたまらない一品です!(鶴・藤・伊)



豆本来の味を紅茶シロップとともに堪能

⑤ふわふわクリームパン「ブルーベリー畑」

「Verde ヴェルデ」

住所：天神町3-7-16

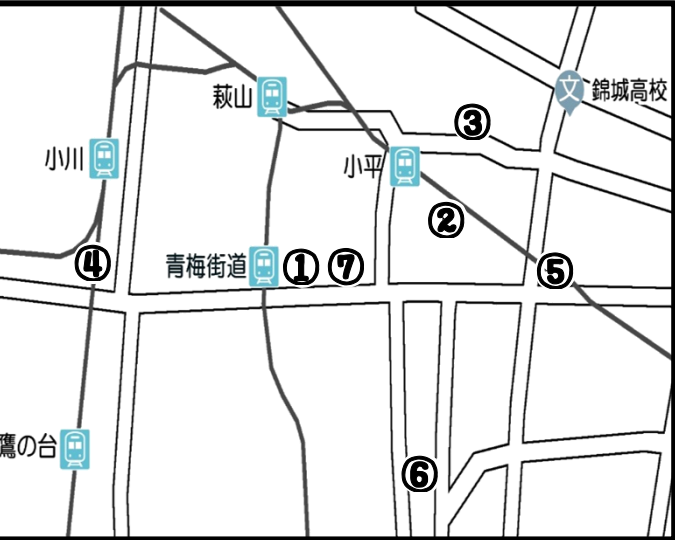
(錦城より自転車で5分)

「Verde」は、天然酵母のパンや手作りクッキーを販売しているパン屋です。ふわふわのパン生地にカスタードクリームとブルーベリーが乗せられた、新感覚クリームパン。Verde ではどの商品も天然酵母にこだわったものになっていて、優しい味わいが楽しめること間違いなし!



優しい甘さの「ブルーベリー畑」ふわふわの食感が楽しめる

実際に食べてみると...ふわふわな見た目に対して食べ応えのある生地は、噛むほどに小麦本来の甘みと良い風味を感じられます。控えめな甘さのカスタードとブルーベリーは、優しい味わい。手作りだからこそ感じられる素材本来の味でした!(豆・白)



(参考: google マップ)

⑦濃厚ソースの「ブルーベリーハンバーグ」

「まるやす商店」

住所：仲町611-1

(青梅街道駅より6分)

第3回小平ご当地グルメコンテストグランプリで見事に輝いた自慢の商品。以前は、デミグラスソースの人も多かったが、「他学年・他クラスの人とも繋がりが持たれた」と部活動にも意欲的だ。校外では毎日2時間以上自分の曲を練習する。大変だと

分の曲を練習する。大変だと



最年少優勝し、ウィーンでオーケストラと共演した

遠井彩花さん(1E)が全日本ジュニアクラシック音楽コンクール弦楽器部門高校生の部第5位に入賞した。本大会では全国から予選を勝ち抜いてきた30~40人がそれぞれピアノ伴奏に合わせてヴァイオリンを演奏する。1歳から習っているヴァイオリンを現在も続けている傍ら、室内楽部にも所属している遠井さん。自分のレッスンもあるため部活を休んでしまうこともあるが、「他学年・他クラスの人とも繋がりが持たれた」と部活動にも意欲的だ。校外では毎日2時間以上自分の曲を練習する。大変だと

錦城文芸 「勉強も音楽も全力で」

生徒会 2.26~3.23 中央委員会 毎週月曜日活動

各部活動の大会報告を募集しています 職員室前大会報告ボックスの隣 においてある紙に記入後、投入してください 勝ち負け関係なく宜しくお願いします!